

学部 / 看護専門領域 / 看護の発展
科目コード : 140010

EBPの探究 Exploring Evidence-based Practice

担当教員	松本 勝、紺家 千津子、幅 大二郎											
実務経験	病院勤務経験のある教員が担当している。											
開講年次	4年次後期	単位数	1			授業形態	講義					
必修・選択	選択	時間数	15									
該当イテマホリ-	(1)	(2)	(3)	(4)	○	(5)	(6)	◎				
Keywords	科学的根拠の検索、看護技術、臨床適応、ICT・IoT、看護理工学											
学習目的・目標	<p>目的： 科学的根拠（EBP）のある最善なケアを実践するための知見の検索や、対象への適応を検討する方法を学習する。さらに、最先端の看護理工学（ICT・IoT、AI、ロボティクス等）をEBPの具現化としてどのように臨床現場へ実装し、活用していくか、そのプロセスを探求する。</p> <p>目標： 1. 科学的根拠あるケアの知見を得るための検索方法と、EBPの5ステップを理解する。 2. 排泄ケア等を事例に、可視化技術（エコー等）やAIを活用したアセスメントのエビデンスと実践を理解する。 3. 創傷・スキンケアにおける最新技術と遠隔看護（テレナーシング）への応用について理解する。 4. 糖尿病患者への物理刺激介入を事例に、臨床課題を解決するための理工学的な研究・開発プロセスを理解する。 5. 社会の動向を踏まえ、スマートデバイス等を活用した今後の在宅ケアの展望について考察できる。</p>											
授業計画・内容												
回	内容											
1-2 10/2	EBP概論と看護における研究の意義											
3-4 10/9	EBPの実践の理解① ・排泄ケア											
5-6 10/16	看護理工学EBP実践の理解② ・振動ケア ・創傷ケア・スキンケア											
7-8 10/30	今後のケアの展望 ・ウェルビーイング×未来の看護											
教科書	授業時に資料を配布する											
参考図書等	医学・看護論文を読み解いて臨床に活かす方法 Evidence-based Medicine/Nursingのすべて 新興医学出版社 看護理工学 東京大学出版会											
評価指標（評価方法・基準）	【評価方法】授業時間の2/3以上の出席をもとに、毎回の授業における課題・リアクションペーパー30%、最終レポート50%、授業中のディスカッション等への参画20%を総合して評価する 【評価基準】 ・EBPの基本プロセスを正しく理解しているか。 ・エコーやAI、遠隔支援等の最新技術が臨床課題を解決する手段としてどのように機能するかを考察できているか。 ・臨床現場の課題に対して、科学的根拠と理工学的知見を組み合わせた具体的な解決策を論理的に提案できるか。 ・新しい技術の導入にあたり、患者の価値観や倫理性、実行可能性を考慮した判断ができるか。											
関連科目	看護の基本・看護援助の方法・看護の実践の全科目、研究方法論など											
教員から学生へのメッセージ	患者様や医療チームから信頼される看護職として最良の実践を提供するためには、科学的根拠（EBP）を見極め、活用する力が不可欠です。本講義では、これまでの「EBPの探究」で培った基盤を大切にしつつ、エコーやAI、振動刺激デバイスといった最新の「看護理工学」が、いかにしてケアの質を変え、臨床の課題を解決していくのかを学びます。テクノロジーを味方につけ、未来の看護を自分たちの手でどう創っていくか、共にワクワクしながら探求していきましょう。											